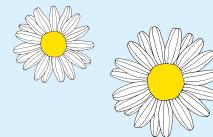




## Contents

- 特集
- ①活躍する学生・生徒たち … 2~3
  - ②小学部 各種発表会 … 4~5
  - ③中学部・高等部 白木祭 … 6~7
  - 学園各部報告 … 8~11
  - 同窓会だより／マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

## 特集1

# 活躍する学生・生徒たち



渡部千春さんの審査員特別賞作品



坂上華梨さんのグランプリ作品

「第16回 ACジャパン広告学生賞」  
1名グランプリ、1名審査員特別賞

「第16回 ACジャパン広告学生賞」に、生活デザイン学科の学生2名が制作した公共広告が入賞しました。学科の学生2名が制作した公共広告が入賞しました。今年は全国の美術大学や一般大学から、過去最高の

応募総数497点の作品が集まりました。その中から一次・二次・最終選考と審議が繰り広げられ、厳正な選考の結果、生活デザイン学科4年生の坂上華梨さんがグランプリを受賞しました。同時に、4年生の渡部千春さんが審査員特別賞を受賞し、本学の学生がダブルで受賞しました。またグランプリ受賞作品は、ACジャパンの広告として、朝日新聞など全国5紙で全面広告のサイズで掲載されました。

この「ACジャパン広告」は、若い世代が広告制作を通して公共広告への理解を深め、「公」への意識を育むことを目的に2005年に設立されました。学生ならではの自由な視点や発想が選考のポイントとなっているもので、坂上さんのグランプリ作品は、18才からの選挙権をテーマに制作し、「緩いイラストレーション」とキャッチーなコピーが新鮮だ」と評価されました。渡部さんの審査員特別賞作品は、ヘアドネーションの社会への啓発広告で、自らモデルになつた美容室の写真が不思議な空気感を表現しています。どちらも、広告のプロフェッショナルが認める、完成度の高い広告作品になりました。指導した北谷しげひさ教授からも、「本当に心から嬉しい受賞でした。」とのコメントがありました。

制作中のプレゼンテーションの様子  
左 / 坂上華梨さん 右 / 北谷教授制作中のプレゼンテーションの様子  
右 / 渡部千春さん 左 / 北谷教授

受賞した学生たちは、いずれも小泉京美教授のゼミ生です。指導した小泉教授からは、「今回の受賞は、挑戦を通じて人は育つ」という本ゼミの方針を具現化してくれたものでした。コロナ禍で、例年参加してきた様々なコンテストが中止となり、学生がチャレンジできる貴重な機会が失われましたが、新たに参加可能なコンテストを探し、各学生の独創性や強みを活かし、エッセイ、商品アイディア、ポスター制作など異なる分野に挑戦しました。初めてのオンライン対応で、学生同士のチーム作りやコミュニケーション不足などに悩んでいましたが、4年生の厳しい指導と「通い合宿」などの工夫で困難を乗り越え、新たな領域にチャレンジし、3年生、4年生ともに成長が実感でき成果を出す事に繋がりました。」とのコメントがありました。

「第24回 身近なヒント発明展」奨励賞、努力賞  
川口朋香さん、平田莉香子さん、福屋亜美さん

英語文化「ミニューケーション学科」  
「若者を考えるつどい2020」奨励賞、努力賞  
「第24回身近なヒント発明展」奨励賞・努力賞

「若者を考えるつどい  
2020」  
奨励賞 坂口絵梨さん



## 〔中学部〕

## バスケットボール部 神奈川県U15バスケットボール選手権準優勝

中学部バスケットボール部では、本年度目標にしていた夏の総体がなくなり、生徒たちにとって辛い1年となりましたが、9月22日(火)から神奈川県U15バスケットボール選手権が開催され、本校は10月18日(日)の最終日まで順調に勝ち進みました。最終日の準決勝では50対43でクラブチームGratusに勝利しましたが、クラブチームYokohama Fiestaとの決勝戦では36対47で惜しくも準優勝という結果になりました。優勝チームは1月にある全国大会に出場できただけに残念な結果ともいえますが、休校期間中にそれぞれの選手たちが計画を立て、努力して掴んだ結果に胸を張りたいと思います。



県U15選手権大会 集合写真

県U15選手権大会 表彰

また、相模原市最優秀選手にオクラン咲樹アマさん、西山莉子さん、優秀選手に柏四季さん、成田和杏さん、モハメドアミナトウ美早希さんが選ばれました。さらに、11月に行われた新チーム(1、2年生)の相模原市秋季大会では、10年連続13回目の優勝を果たし、新

チームとしても好スタートを切ることができました。その後予定されていた2連覇のかかった県大会は残念ながら中止になってしましましたが、3年生の思いを引き継いで進んでいきます。

(田島)



相模原市秋季大会 表彰

## 〔中学部〕

## 全国新聞協会主催 「みんなで読もう！新聞コンクール」 中学部2年生が全国で奨励賞受賞

2018年度より、中学部・高等部は、NIE (Newspaper in Education) の実践指定校に認定されています。NIEとは、新聞を教材として活用する取り組みのことで、新聞に親しみながら、読解力の向上や新聞を通して社会に目を向ける姿勢の育成を目指すものです。その一環として、全国新聞協会が主催する「みんなで読もう！新聞コンクール」に応募しました。

中学部1、2年生では、「新聞を開いて、新聞には何が書かれているのかを探ろう」という取り組みから始め、興味を抱いた記事に対する自分の考えを言葉にしました。そこから、さらに家族や友達の意見をもらしながら、自分の考えを深めてまとめていきました。応募を重ねて3年目になりますが、今年度は、神奈川県の審査で高等部1名、中学部5名が入賞しました。また、相模原市最優秀選手にオクラン咲樹アマさん、西山莉子さん、優秀選手に柏四季さん、成田和杏さん、モハメドアミナトウ美早希さんが選ばれました。さらに、11月に行われた新チーム(1、2年生)の相模原市秋季大会では、10年連続13回目の優勝を果たし、新

分の考えを周囲と共有したことで表現がしやすくなつた。今後も様々なことに積極的に取り組みたい」と語っていました。

(堤)

## 関東新人選手権大会出場 陸上競技部



神奈川県新人大会 優勝時の杉山未佳さん

2020年10月24日(土)、正田醤油スタジアム群馬(群馬県立敷島公園陸上競技場)で行われた第24回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会に、高等部2年生の杉山未佳さんがやり投で出場しました。

本年度はコロナ禍においても意識を高く保ち、全力で競技に打ち込んできた結果、9月の神奈川県新人大会で見事優勝を果たし、県チャンピオンとして挑んだ関東大会でしたが、思ったような結果は出せず、非常に悔しい思いで大会を終えました。

初の関東大会というこの大変貴重な経験を糧に、来年度の全国大会を目指して冬季練習に励んで参ります。日頃より練習環境を整え、ご支援ご声援くださいます皆様には本当に感謝しております。今後とも練習できることに感謝しつつ邁進します。

(鈴木)

# 特集2 小学部 各種発表会

## コロナ禍の中でも子どもたちのパワーにエネルギーをもらつて

コロナ禍の中、小学部では、取り組み方に注意し、会場や参観者の人数を工夫して学校行事を行いました。子どもたちにとって学校行事の教育効果はとても大きいものです。目標を持って取り組むことの大切さ、文化に触れることの楽しさ、友だちと協力することの素晴らしさなどを学びます。

相生祭の中止はありましたが、1年生と5年生のクラスごとの劇発表(3年生は3学期)や、2年生や4年生の音楽発表、保護者の皆さんからの要望が強かつた5、6年生男子による剣舞、そして、例年通りのEnglish Speech Contestを行うことができました。

### 英語以外の学習活動を生かした 英語のスピーチに

#### —全校 English Speech Contest—

12月3日(木)、相模女子大学グリーンホールにて、第7回全校 English Speech Contest が開催されました。スピーチコンテストには2年生から出場することができます。各学年の代表を決める予選が11月

中に行われ、この日は、各学年の代表の生徒が発表を行いました。

子どもたちはこの日のステージに出ることを目標に頑張ってきました。ですから、代表に選ばれた子は、クラスの友だちの応援も受けて、一生懸命に頑張ります。

スピーチの題材は、他の教科で学んだことを元に組み立てられます。例えば、4年生では社会科の都道府県調べについて、5年生では、SDGsの問題解決のロボット(プログラミング学習で作成)の紹介といった合科的な内容になっています。また、高学年では、iPadを利用して作成したプレゼンテーションのスライドも見所です。

毎年のことながら、子どもたちの発音の良さや広いステージで物怖じせずに堂々と発表する姿には、感心させられるばかりです。

今年度も、ご来賓のみなさまに選考していただき、各学年から1名ずつ、特別賞が与えられました。来年度以降は、より多くの児童がステージに登壇できるような英語学習の成果発表の場に、この行事をレベルアップできたらと考えています。



第7回 全校 English Speech Contest

### 今年の音楽発表会は器楽演奏を中心 に

#### —2、4年生 音楽発表会—

全校 English Speech Contest を行った日の午後は、同じく相模女子大学グリーンホールにて、2年生と4年生の音楽発表会を行いました。従来ならば、相生祭で発表する音楽発表ですが、広いステージの利用と器楽演奏を中心とした発表に切り替えて行われました。2年生は「日本のまつりを楽しもう」と題して、和太鼓を中心とした童謡「村まつり」の合奏と数人の独唱、そして、自分たちで考えた和のリズムの紹介をする発表でした。法被姿の子どもたちが、和太鼓を演奏したり、阿波踊りをする姿は、コロナ禍の中で失われた祭りの楽しさを感じさせてくれるものでした。

4年生は合奏「ライオン・キング メドレー」です。3組の「ハクナ・マタタ」でスタートし、2組が「王様になるのが待ちきれない」、1組が「愛を感じて」を演奏。

各学年代表のスピーチの様子



3年「物語『スイミー』の暗唱とすきな場面」



2年「自分のすきなもの」



6年「My Dream」



5年「SDGsの課題とその解決のためのロボット」



4年「都道府県のPR (社会科の学習を生かして)」

そして、最後は4年生全クラスで『サークル・オブ・ラブ』の演奏と、お馴染みの曲が続きます。様々な楽器で演奏を合わせることは、とても難しいチャレンジでしたが、子どもたちは楽譜と、児童のiPadに配信された音楽を併せて聞き取りながら、練習に取り組み、立派な演奏を聴かさせてくれました。

(澄井)



2年3組「日本のまつりを楽しもう」



2年2組「日本のまつりを楽しもう」



2年1組「日本のまつりを楽しもう」



4年3組「ハワナ・マタタ」



4年2組「王様になるのが待ちきれない」



4年1組「愛を感じて」



1年3組「やくそく」



1年2組「おおきなかぶのそのあとに」



1年1組「やさいばたけは、おおさわぎ」



5年3組「昔話法廷「ごんぎつね」」



5年2組「昔話法廷「オオカミと七匹のこやぎ」」



5年1組「昔話法廷「うさぎとかめ」」



剣舞「川中島」一剣を磨く



剣舞「川中島」長蛇を逸す

11月30日(月)、5、6年男子有志による剣舞発表がありました。例年ならば、5月の運動会に合わせての練習となりますが、受験が近づいてくる11月に、6年生男子が果たして剣舞に取り組めるのだろうか、と考えていました。けれども、最終学年でも、ぜひ剣舞にチャレンジしたいと言う児童が多く、5年生もたくさん参加しての実施となりました。上級生から受け継いできた魂を立派に引き継いで、凛々しい姿を見せてくれました。

(澄井)

## 受験期であつてもがんばりたい —5、6年生男子有志による剣舞—

小学部では、表現力の育成を目指して、劇発表を国語のカリキュラムに位置づけています。今年度は学年ごとに日にちを決めて、保護者1名の参観という形で行いました。

## 役になりきって頑張る子どもたち —1、5年生 創発表会—

練習ではマスク、本番ではマウスシールドの着用という体制で臨みました。

1年生の劇は、1組が「やさいばたけは、おおさわぎ」、2組が「おおきなかぶのそのあとに」、3組が「やくそく」です。1年生にとっては、初めての劇でしたが、どのクラスも工夫された踊りと元気な台詞で楽しめました。

5年生は、3クラス全でが NHK for school の番組「昔話法廷」を元に舞台化した劇を上演しました。クラスによって取り上げた昔話が違います。1組は「うさぎとかめ」、2組は「オオカミと七匹のこやぎ」、3組は「ごんぎつね」を題材にしています。子どもたちのアイデアで脚本が作られ、原告側、被告側のそれぞれが示す証人や証拠を元に、観客に有罪か無罪かを決めてもらいうというものでした。さすが5年生で、台詞以外の動きも工夫していく、しっかりとした演技でした。

## 特集3

## 中学部・高等部 白木祭

中止となつた相生祭の代替案を実施するため、高等部では総勢22名の有志の実行委員会が立ち上りました。オンライン文化祭「白木祭」のHPが1月20日(水)に公開され、1月27日(水)には第1回生配信が花火打ち上げとともに行われました。

- 動画公開期間 1月20日(水)～2月28日(日)
- 第1回生配信 1月27日(水)
- 第2回生配信 2月23日(火)

コロナに青春を奪われない！

白木祭実行委員長



高等部2年 大滝理央

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により様々な行事が中止となつてしまつた中、たつた一度の学校生活をこのままでは終わらせたくない！という気持ちからこの白木祭を企画しました。

オンライン文化祭は初めての事で、上手く行くのかとても不安でしたし、実行委員会や、先生方、地域の方々と話し合いを重ねて活動していく中、うまくいかないことがたくさんありました。

この活動を通じて、少しでも地域の方に何か還元することができればと思つてきましたが、地域の方々の協力なくして、このような大きな活動にする事は出来ませんでした。商店街の方々は時に厳しく、時に優しく、この活動を支えてくださいました。チラシへの掲載や、CM撮影の依頼も快く受け入れてください、本当に感謝しています。

できないことはない！

白木祭副実行委員長



皆様こんにちは！生配信された白木祭はご覧になりましたでしょうか？

新型コロナウイルス感染症の流行により、様々な制

も素敵な花火を打ち上げる事が出来ました。花火が打ち上った瞬間の喜びは忘れられません。

生徒の中には「白木祭つてやる必要あるの？」「白木祭つて何やつてるかわからないよね？」という言葉も少なからずありました。しかし、動画を楽しんでくれている人たちや打ち上がつた花火に感動してくれた人の姿を見て、自分たちの活動は間違つていなかつたと確信することも出来ました。何よりもこの活動を通じて、自分自身が充実した学校生活を送ることが出来ました。

関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。



白木祭実行委員

初のオンライン文化祭！  
白木祭第1回生配信当日！

白木祭実行委員1年代表  
高等部1年 池田天奏

1月27日(水)に白木祭第1回生配信を行いました。降水確率は90%と、不安を抱えた中で本番がスタート。

学園連携企画や部活動発表のほか、相模大野商店街の方々・竹下先生へのインタビューなど沢山の企画があり、盛況を呈する配信となりました。

一時雨が降ることもありましたが、17時30分から、無事花火を打ち上げることが出来ました。準備期間が長かった分、涙を浮かべている実行委員もいました。

クラウドファンディングにもたくさんの方々が協力して下さいました。まさかここまで多くの方が相模女子大学中学部・高等部を応援して下さっていたとは、驚きと感謝の気持ちでいっぱいです。おかげでとて



限がある状況下で、白木祭は想像以上に完成度の高い仕上がりとなりとても嬉しく思っています。クラウドファンディングを利用して自分たちで資金調達から行つた花火は、本当に大きくて華やかで、今までにないくらい感動するものでした。白木祭を通じて出来ないことに悲観するのではなく、できる目に向けて活動することの大切さを学ぶことが出来ました。

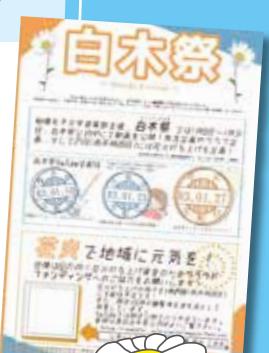
全ての方々への感謝は言葉では言えない尽くせません。ありがとうございました！



実行委員会制作パーカー



チアリーディング部の発表



た。配信時は司会を行っていましたが、アドリブが多く、少し大変でしたが（笑）とても楽しかったです。1500人以上の方に視聴していただき、想像を超える盛り上がりでした。

今回の配信で皆様に少しでも笑顔をお届け出来ていたら幸いです。

## 初のクラウドファンディング挑戦

白木祭実行委員1年副代表



私たちの思いをのせて  
大空に打ちあがった花火



に舞台監督を務めさせていただいておりましたが、経験したこともないことの連続で心臓が飛び出るかと思ひながら精一杯やらせていただきました。当日は最終確認をする時間を取りながらやっていたはずが、事前トラブルが相次ぐ中でのスタートでした。司会の二人が進むにつれて慣れてきたのかアドリブ対応をしてくださったので何とか大きな問題も起きずに終わることができ、大変ホッとしました。第1回生配信の目玉であつた花火の打ち上げの前に花火師さんとインカムでやり取りをさせていただいた時が一番緊張しました。皆さんのかウントに合わせてお願いし、無事打ちあがった時の感動は忘れられません。打ちあがった時の室内組の花火観覧ができる場所への飛び出しも忘れられません。

改めて、関係者各位及び視聴者の方々に最大限のお礼を申し上げます。また、花火のみの動画が上がっておりません他、ホームページも手掛けさせていただいていると、実感が湧いてきたのを覚えています。プロジェクトが立ち上がるまでの約4ヶ月間は様々な困難があり、焦りや不安を感じた日々もありました。

しかし、いざプロジェクトが立ち上がり、なんと約1週間で目標金額である60万円を達成。ネクストゴールの100万円にも挑戦することができました。そして、1ヶ月間のチャレンジを無事に終え、132名の方から107万4千円もの支援をいただきました。私たちの活動がこんなにも多くの方に支えられ、応援されていることを改めて感じ、白木祭の成功に向け決意を新たにしました。

## コロナ禍の文化祭にみた、人と人の繋がりの温かさ

第1回生配信タイムキーパー  
高等部1年 石川優子



第1回生配信の様子

に舞台監督を務めさせていただいておりましたが、経験したこともないことの連続で心臓が飛び出るかと思ひながら精一杯やらせていただきました。当日は最終確認をする時間を取りながらやっていたはずが、事前トラブルが相次ぐ中でのスタートでした。司会の二人が進むにつれて慣れてきたのかアドリブ対応をしてくださったので何とか大きな問題も起きずに終わることができ、大変ホッとしました。第1回生配信の目玉であつた花火の打ち上げの前に花火師さんとインカムでやり取りをさせていただいた時が一番緊張しました。皆さんのかウントに合わせてお願いし、無事打ちあがった時の感動は忘れられません。打ちあがった時の室内組の花火観覧ができる場所への飛び出しも忘れられません。

改めて、関係者各位及び視聴者の方々に最大限のお礼を申し上げます。また、花火のみの動画が上がっておりません他、ホームページも手掛けさせていただいていると、実感が湧いてきたのを覚えています。プロジェクトが立ち上がるまでの約4ヶ月間は様々な困難があり、焦りや不安を感じた日々もありました。

しかし、いざプロジェクトが立ち上がり、なんと約1週間で目標金額である60万円を達成。ネクストゴールの100万円にも挑戦することができました。そして、1ヶ月間のチャレンジを無事に終え、132名の方から107万4千円もの支援をいただきました。私たちの活動がこんなにも多くの方に支えられ、応援されていることを改めて感じ、白木祭の成功に向け決意を新たにしました。

## コロナ禍の文化祭にみた、人と人の繋がりの温かさ

第1回生配信タイムキーパー  
高等部1年 石川優子



第1回生配信の様子

見た時や生放送のコメント欄に温かい言葉を頂いた時、この活動が多く的人に応援されている事に誇りを感じ、実行委員をやって良かったとから思いうことが出来ました。

コロナ禍の青春がこんなにも楽しいものになるとは思つてもみませんでした。この経験を生かし、来年にはさらに素敵な相生祭が開催できることを願っています。

## 「白木祭実行委員会」の活躍

中学部・高等部 校長

原野聰美



生配信中のスタッフは大忙し

今回配信された生放送は色々な人のお陰で成り立っています。私がVTRの用意でミスをしてしまい予定していたCMが流れなくなってしまった時も、VTR出し担当、舞台監督、MC、業者の方などが自分のミスを埋めてくれて、何とか生放送を続行することできました。コロナ禍で人と触れ合う機会が極端に減ったこの時期であつたからこそ、このような人と人のつながりに自分が助けられていることを改めて知ることが出来ました。

あらためて、実行委員の皆さんの中でも始まったこの取り組みも、地域の皆様や学校関係者からの強力な支援のおかげで成功し、夜空を彩る花火となつて、私たちに元気を与えてくれたのでした。

あらためて、実行委員の皆さんの中でも始まったこの取り組みも、地域の皆様や学校関係者からの強力な支援のおかげで成功し、夜空を彩る花火となつて、

楽しい行事ばかりが  
消えていく高校一年目

第1回生配信舞台監督  
高等部1年 高山澪



花火打ち上げのための資金を集めるという話が挙がったのは昨年7月のことです。最初は、自分たちに挑戦することができることか半信半疑でしたが、プロジェクトページが完成に近づくとともに「本当にチャレンジするんだ」と、実感が湧いてきたのを覚えています。プロジェクトが立ち上がるまでの約4ヶ月間は様々な困難があり、焦りや不安を感じた日々もありました。

しかし、いざプロジェクトが立ち上がり、なんと約1週間で目標金額である60万円を達成。ネクストゴールの100万円にも挑戦することができました。そして、1ヶ月間のチャレンジを無事に終え、132名の方から107万4千円もの支援をいただきました。私たちの活動がこんなにも多くの方に支えられ、応援されていることを改めて感じ、白木祭の成功に向け決意を新たにしました。

生配信にご協力頂いた方々及びご視聴くださった方々、ありがとうございました。第1回生配信の当日

# 報告

大学・短期大学部

第10回さがみ発想コンテストが開催されました

10回目となるさがみ発想コンテストは、新型コロナウイルスの感染拡大をプラスのきっかけとして、「どのようにしたら生活が豊かになるか」という視点から、「発想×コロナ・新型コロナを糧としたよりよい生活とは」というテーマでアイデアを募集中、18件の応募がありました。前回までは、書類による一次審査を行った上で、一次審査を通過された方に最終審査会でプレゼンテーションを行つてきましたが、今回は、コロナ禍により、完全オンラインでプレゼンテーションと審査を行うことになり、応募者から動画を提出してもらいました。大学プランディング推進委員会による一次審査の結果、6名が最終審査に進み、プレゼンテーション動画を学生及び教職員に限定公開する形で、投票が行われました。投票の結果、最も得票数の多かった英語文化コミュニケーション学科3年生の藤間彩衣さんの提案『Cooking & Health Support Application ~ Cooker ~』がグランプリに選ばれました。

## WEB会議システム「Zoom」を利用して就職支援について

就職支援課では、大学3年生および短期大学部1年生を対象とした秋学期就職準備講座を、9月から12月までの毎週木曜日に実施しました。

コロナ禍で全てWEB会議システム「Zoom」を利用して実施し、「企業の採用動向について」、「就活メイク」、「自己分析(復習)」、「履歴書・エントリーシートの書き方」、「オンラインインターナンシップ」、「内定者の就活体験」、「面接対策(対面・WEB)」、「OGからの就活アドバイス」、「U-I-Jターン(※)説明会」、「業界・企業研究」など、就職活動に実際に役立つ講座を行いました。

また1月より企業の採用担当者がら業界の特徴や企業の魅力についてお話しやすく「お仕事研究会」を行いました。こちらについても全て「Zoom」で実施し、学生たちは自宅からスーツを着用しての参加となりました。

今後は、初の試みとなるオンラインデマンド配信での「お仕事研究会」も実施します。こちらについても、多くの学生に参加してもらいたいと考えています。

（※）リターーン、一ターン、ノターンの総称  
リターーン：地方で生まれ育った人が都市部の学校に進学し、卒業後に故郷に戻つて就職すること  
一ターン：都市部に生まれ育つた人が、地方に移住して就職すること  
ノターン：進学や就職で地方からの都市に移住した後、生まれ育つた地域に近い地方都市に移住して就職すること

ノジマステラ神奈川相模原で、学生が  
“デザインしたグッズが商品化されました”  
ノジマステラ神奈川相模原との連携活  
動の一環で、チームが販売するグッズのデ

サンタプロジェクト・さがみはらでは、自宅でクリスマスを過ごすことがで  
きない子どもたちへクリスマスに本を贈る活動を行っています。コロナ禍でプ  
ロジェクトの中止も検討されました  
が、ある学生の「こういう時だからこそやり  
たい」という声でみなが一致団結して、

学生が架け橋となって、自宅でクリスマスを過ごせない子どもたちへ本を贈るプロジェクトを行っています

「Nojima Online」にて、2020年11月から商品として販売されています。相模原市に拠点を置く女子サッカーチーム・ノジマステラ神奈川相模原と本学は、2013年にパートナーシップ協定を締結し、サッカーの試合運営ボランティアとして年間を通して学生派遣を行なうなど、連携を強化しています。



学生のデザインが採用されたエコバッグ 収納することができるので持ち運びにも便利です



収納することができるので持ち運びにも便利です



子どもたちが喜んでくれるかなとわくわく



市民サンタさんが「その子」のために購入



リピーターのサンタさんも  
いるそうです

それぞれの得意分野を活かしてカード作り等の準備をすすめました。今年は、くまざわ書店相模大野店、三省堂書店海老名店の協力のもと、地域のサンタさんが「その子」へ向けて選んで購入された本を、市内の児童ホームへ77冊もお届けしています。例年のように直接届けられず郵送となりましたが、制約の中でも人を想う気持ちがみえる活動となりましたこと、ご報告いたします。

## Hello! from Asia —アジア架け橋生2名を迎えて—

高等部では12月から2名のアジア架け橋生を迎えた。パキスタンから来た18歳のファティマ（ファタさん）と、モンゴルから来た16歳のエンヒジン（エンちゃん）です。3月までそれぞれ高校1年生のクラスで勉強しています。

日本語の学習を始めて半年余りのファタさんは、昨年の架け橋生、スリランカのサッチャンとSNSで連絡を取り合い、日本の学校生活を予習してきました。日本語の聞き取り能力も飛躍的に伸びています。パキスタンの学校にはクラブ活動がないため、体操部やバトンワーリング部など、本校のクラブ活動を満喫しています。

一方のエンちゃんは、ウランバートルで育つた都会っ子。9歳から「NARUTO」などのアニメを見て日本語を独学で習得した強者です。得意の英語の授業ではクラスメートをリードする存在となっていました。初めての女子校生活は新鮮らしく、バケツボール部やESS部の活動に熱心に取り組んでいます。



新年の書初め(左/エンヒジン 右/ファティマ)



書道の授業にて

り組んでいます。

コロナ禍で4月からの留学予定が大幅に遅れ、学校行事を体験する機会も大幅に減ってしまいました。楽しみだった

調理実習もなくなり、予定していた茶道体験も「エア茶道」にはなってしまいましたが、たくさんの「経験」というお土産を持ち帰ってもらいたいと願っています。

(高等部・水谷)

## 心を揺さぶるショード、心が弾むショード

12月に行われたJAPAN CUP 2020に、高等部と中学部のバトンワーリング部が出場しました。

高等部のテーマは“Alive”。「苦しくても、私はまだ息をしている…」そんな強いメッセージが含まれるこの曲に決めたのは2020年2月で、新型コロナウイルスの感染拡大により世の中が大きく変化する前のことでした。今年度の作品としては出来過ぎたテーマだと感じたのは、4ヶ月のブランクを経て部活動が再開された6月下旬。大会開催を信じて、限られた状況の中「今、できること」に集中し、作品に向き合いました。観客の心を揺さぶる一



今年のチームを牽引してくれた高校3年生、ありがとうございます



苦しくても、私たちは負けません!

曲を目指し、力強くしぶといチームの底力を見せ、歴代最高位と並ぶ第5位に入賞を果たしました。

「とにかく楽しんで！」と送り出し

た中学部のテーマは“Fancy Cat”。オシャレで気まぐれで楽しいネコ。どこにでもすぐにわかる2つのお団子へアが選手たちの気持ちを盛り上げ、保護者や高校生の大きな拍手がエネルギーを与えてくれました。誰もが安心感を持つて作品を「楽しむ」ことができたのは、休憩時間に惜しんで練習を重ねた生徒たちのひたむきさのおかげです。歴代最高位の第2位となつたこと以上に、「楽しかった」という評価を多数いただ

く思います。

いつの間にか、力強く、しぶといエンターテインメント集団となつていたバトンワーリング部を引き続き見守つていきたいです。

(高等部・対馬)



ネコになりきって走り回ります!

## 吹奏楽部が県立相模原高校とジョイントコンサートを開催

中・高等部吹奏楽部は、12月27日(日)に、相模女子大学グリーンホールにて3回目となる県立相模原高校とのジョイントコンサートを開催しました。

今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、一部客席エリアを定員の50%に制限したり、入場券申し込みサイトを事前に閉鎖したりと、さまざまな対策を



本番の終了直後に両校部員で

講じた上で、何とか開催に漕ぎ着けることができました。本来は、一人でも多くの方に来場して頂きたいところでしたので、残念でなりません。しかしながら、そのようなマイナス面を感じさせない、部員たちの頑張りが光った演奏会となりました。

両校はともに、昨年の定期演奏会が中止となり、お客様を迎えて演奏できる機会は、実に一年ぶりでした。直前まで心配の種は尽きませんでしたが、直接演奏を聴いて頂ける喜びが溢れた、充実度の高いコンサートとなりました。I部、II部では各校がそれぞれの特色を大いに發揮し、III部では総勢110名がダイナミックな演奏を繰り広げました。来場者アンケートには、生演奏を耳にできた感動が多く寄せられました。

今振り返ると、ぎりぎりのタイミングでの開催だったかもしれませんのが、実り豊かな経験ができたことをうれしく思います。開催を支えて頂いた皆様に、篤く御礼申し上げます。

(高等部・近藤)

## 小学部

## つなぐ手(伝統文化体験)「落語に親しむ」

11月24日(火)に、3年生と4年生のつなぐ手の授業の一環で、「落語に親しむ」と題した、伝統文化体験授業がありました。講師として、落語家の桂伸衛門(かつらしんえもん)さんと、お囃子の成田みち子さんをお招きしました。3年生の時にも桂さんの落語を聴いていた4年生は、特に、朝から楽しみにしていました。「あれ?先生、去年は名前が伸三(しんざ)さんだったよ。」と子どもたち。桂さんは、今年の5月に真打に昇進されて、「伸衛門さん」に改名されました。桂さんから、落語の世界には「前座」(4~5年)、「二ッ目」(約10年)、「真打」という階級があることを聞いて、子どもたちは驚いていました。桂さんは、前座「春雨 雷太さん」の時代から毎年小学部のつなぐ手の授業をして下さっています。

4年生の授業では、桂さんは、最初に長襦袢姿でいらして、子どもたちの目前で着物を着て帯を締め、羽織をはおつて下さいました。そして、小道具の手ぬぐいや扇子を用いながら、芸を見せて下さいました。

桂先生の演技によって、手ぬぐいがお皿に見えたり、お財布に見えたり、本に見えたり、あつあつの焼き芋に見えたりします。また扇子は、お箸に見えたり、刀に見えたりします。舞台には桂さんお一人なのに、顔を向ける方向や視線を変えただけで、何人の役を演じ分けたりします。子どもたちは、一気に桂さんの作り出す落語の世界に引き込まれていました。

続いて、寄席太鼓の「追い出し太鼓」を紹介して下さいました。「追い出し太鼓」



落語家 桂伸衛門さんに学年代表が挨拶

桂さんは、落語の「猿のお話」「もと犬」「ときそば」という小話を話して下さり、子どもたちは、マスクをしながらでしたが、お腹をかかえて大爆笑、大きな拍手に包まれました。間近で本物の落語を聞く貴重な体験をすることができました。

(小勝)

つなぐ手タイムを利用して、今年度初めて、全校一斉のスクールバディ活動が行われました。小学部では「スクールバディ」と称した、上級生と下級生のペアがいます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、一緒に昼食を食べたり、遊んだりすることができなかつた今年のバディ活動。そのような中で、児童代表委員会の子どもたちが、非接触型のゲームを考え、「糸電話クイズ大会」を実施することができました。

上級生が下級生を迎えに行き、上級生が事前に作つておいた糸電話を使って、クイズ大会のスタートです。i Padに配信されたクイズを上級生が下級生に提出します。

「よく聞こえないー!」「もう一回言つて!」普段なら簡単に答えられるような問題も、糸電話を通すと、聞き取るのが難しくなります。それでも、慣れてくるにつれ、「わかった!」「正解ー!」と、クイズに正解している様子が見られました。

短い時間ではありましたが、初めてのバディ活動をとても楽しんでいた様子が見られました。素晴らしいアイデアを考えてくれた児童会指導部の子どもたちにも感謝です。



「1年生聞こえる?じゃあ、問題ね」

スクールバディとの交流を児童が企画  
(全校つなぐ手)

## オンラインで自動車工場見学(5年生)

5年生は社会科で自動車工業についてを勉強をします。本来ならば、実際の自動車工場を見学するのですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で工場見学を実施している会社がほとんどいません。そこで、今回は日産自動車九州さんにオンラインでの自動車工場見学をお願いしました。

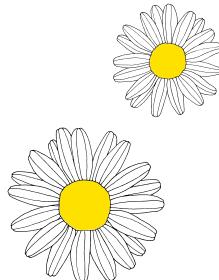
自動車がどうやって作られるのか、これから自動車はどうなっていくのかなど動画とお話で説明してくださいました。

質問コーナーでは、子どもたちが事前に勉強した内容の中から質問したいことを尋ねました。丁寧に答えてくださいましたが、中には「企業秘密なのでどうしても知りたかったら日産に就職してください」とお説明してくださいました。

普段は、「両手で大きな○を作つて」なんて言わっても、「そんなのやだー」と恥ずかしがつて年頃の5年生。ところが、電子黒板に映る優しいお姉さんに言われると、素直に全員が指示に従う、というなんとも不思議なオンラインパワーを感じました。

工場見学をするともらえる特別仕様のNISSANリーフミニカーが事前に小学部に送られていて、子どもたちにプレゼントされました。実は、50台に1台の当たりがあります。当たりは、車体の色が違い、特別に電池などが付いており、付属の家に駐車させると電気がつきます。大当たりの子は、みんなにうらやましがれていました。休み時間には、もったたミニカーをみんなで走らせ、なんだかとても楽しそうでした。

(鬼頭)



オンライン見学 みんなで○



5年生がオンラインで日産自動車見学



みんな素敵なものを作っているんだね

11月28日（土）に作品展が開催されました。子どもたちは、空き箱やスズランテーブ、絵の具や紙粘土など、様々な気に入った素材を使いながら作品作りに励んでいました。友だちが絵の具を使っている姿を見て、「私も絵の具やりたい」と興味を持ったり、見たことのない空き箱を見つけると目を輝かせながら手に取ったり、意欲的に製作活動に取り組んでいました。製作活動に取り組む中で、自分のイメージしたものに近付けるために悩む姿も多く見られましたが、子どもたちにしか考えられないようなひらめきと発想を活かして作品を作り上げていく姿に驚くばかりでした。

「早く作品展にならないかな。」「お父さんとお母さんが来てくれるんだよ。」と子どもたちは作品展の開催を楽しみにしており、作品展当日は、自分が作った作品を保護者の方にたくさん褒めてもうととても嬉しそうにしていました。（竹下）

## 認定こども園 幼稚部 個性溢れる作品展

12月17日（木）にクリスマス会を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染対策により、例年のような華やかな会ではありませんでした。が、子どもたちに少しでもクリスマスの神聖な雰囲気やワクワク感を楽しんでほしいと願い3密を避けた方法で行いました。

乳児クラスと年少組は各保育室、年中組と年長組はホールでクラスごとに集まり、いつもと少し違う雰囲気に、子どもたちは何が起きるのか不安と期待が混ざったような様子でした。鈴の音が聞こえると一気に緊張感が高まりました。そして、サンタクロースが登場すると目を丸くして驚きと喜びの表情に変りました。プレゼントを受け取ると、嬉しそうに保育者に見せたり、袋をじっと見つめたりする子どもたち。再び鈴の音が聞こえ別れの時間になると、子どもたちは一生懸命サンタクロースに手を振り、ありがとうございましたの気持ちを伝える姿が見られました。



紙粘土って柔らかいんだね！



プレゼントは何かな？



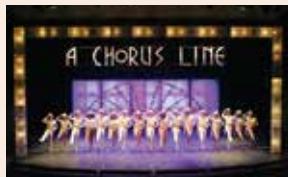
サンタさんがお部屋に来てくれました!!

いつもは元気いっぱいの子どもたちですが、どのクラスも驚きすぎて声もない様子が見られ、その純粋な表情がとても可愛らしく印象的でした。今後も子どもたちの健康と安全に配慮しながら、園の行事を楽しめるよう工夫して保育していきたいと思います。（福田）



## 卒業 18 年後に思うこと スカラ奈緒子

(平成 15 年 学芸学部国文学科卒)



写真提供 MNSU Theater



写真提供 Wes Taylor

私は学芸学部国文学科を2003年に卒業しました。卒業してから2年後に渡米し、舞台美術とデザインを、カンザス州の大学とミネソタ州の大学院で学びました。その後、アメリカのサウスカロライナ州とアリゾナ州の劇場や大学などで働き、現在はアメリカ合衆国オハイオ州のThe College of Woosterという私立大学で助教授として働いています。

在学中、先生方には大変お世話になり、特に梅林博人先生には卒業論文制作にあたり、感謝しても仕切れないほどお世話になりました。私は特に模範的な学生というわけではなかったのですが、梅林先生が最後まで私のことを諦めず、叱咤激励をし続けてくださったおかげで、卒業論文を提出できたと言っても過言ではないと思います。アメリカと日本の学生には様々な違いはありますが、教える立場の人間の学生への姿勢、対応の仕方によって、学生の学業における向上心や熱意が影響されるということは同じように思います。今、私が働いている大学でも卒業論文の提出が必須で、指導する立場となった今、梅林先生を始め多くの先生方の苦労や真摯な姿勢を思い出し、改めて感謝の気持ちで一杯です。

舞台芸術は劇作家の意図や本意を汲み取って創り出す芸術で、特に舞台美術は作品の行間を読み取ることが必至となり、

言葉を使わずに視覚に訴える表現をすることが大切です。私がカンザスの大学に留学を始める前は、英語が本当に苦手でした。けれど私が相模女子大学に在学中は、日本の文学作品をどのように様々な方法で解釈、分析するのかをじっくりと学んだので、それが今の仕事でとても役に立っているように思います。

何かひとつでも、時間を忘れて夢中になることがある、それを諦めずに続けられる方法を探すということが、何事においても良い方向へつながっていくのではないかと、アメリカで何人もの学生の進路相談に乗る度に思います。相模女子大学では、自分の興味のあることを研究する楽しさ、そしてどうすれば諦めずに続けられるかということを授業や課題、そして卒業論文を通して学ばせてもらいました。アメリカと日本の研究の仕方に多少の違いはあれど、論文や研究に取り組む姿勢や考え方などは、今でも、学んだことが活きているように思います。

今、相模女子大学に在学中の方の中で、卒業後の進路に悩んでいる方がいらっしゃったら、何をしている時に時間を忘れて夢中になるのかを考えるとそこから始め、それを諦めずに続けられる方法を考え始めると、意外な道が開けたりするかもしれません。

## ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。

ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。

今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和 2 年 3 月末現在	令和 2 年 12 月末現在
マーガレット募金額	47,702,061 円	53,902,407 円

### マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。使途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

**この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。**

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。



**① お振込 (郵便局または銀行窓口)** **② 郵送 (現金書留) またはご持参** **③ 自動振替での継続**  
詳細につきましては、大学ホームページ(<https://www.sagami-wu.ac.jp/>)をご覧いただき、下記事務局までお問い合わせください。

●マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課  
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-813-5030 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp  
●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先  
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 **相模女子大学**